

大阪サテライトキャンパス

アフリカとの協働を考えるシンポジウム

大阪サテライトキャンパスは2011年の開設以来、関西およびその周辺でも上智大学の教育研究活動を発信することを目的に、入試広報や公開講座、地域との連携プログラムを実施してきた。今回は9月18日に開催されたアフリカ関連イベントを2つ紹介する。



高校生にアフリカの魅力を紹介するシンポジウムでは活発な意見交換も



キャンパスはサクラファミリア2階に



国際協力、国際機関への道々アフリカ地域への学びを通して、本学のグローバル教育の中でも特色豊かなアフリカ地域への学びについて理解を深めてもらうため、高校生を対象に体験授業と

トークセッションを行った。グローバル教育センターの山崎瑛莉講師が本学の実践型プログラム「アフリカに学ぶ」を紹介する体験授業を実施。広大なアフリカの地域ごとの特色や魅力について映像資料を活用して解説し、

「アフリカに学ぶ」の成果と可能性を紹介。続いて山崎講師がTICAD8での最新情報を基にアフリカの現状報告と分析を行った。永井敦子文学部教授は、文化風習を含めた地域理解の大切さを説明。そして、アフリカ地域

の協働事業の実例として、パナソニックホールディングス株式会社CSR・企業市民活動担当室企業市民活動企画課の多田直之氏が、無電化地域へのプロジェクト「LIGHT UP THE FUTURE」を紹介した。最後に、アフリカビジ

荒井教授は、「この特別展では、さまざまなことを考える工夫がなされる。ヒトの進化や地球上の言語の多様性などの比較など、言葉の不思議に迫る特別展だ。」

理工学部・荒井隆行教授が企画に参画 ことばの不思議に迫る 特別展が大阪で開催中



この特別展には、身近にありすぎてほとんど振り返ることのない「ことば」をテーマに、言語学のみならず、文化人類学、工学系、教育系、脳科学、認知心理学などの分野から、50人を超える国内外

高柳俊一名誉教授逝去 7月28日、前立腺がんのため死去。1932年生まれ。55年ゴンザガ大学大学院修士課程修了。59年博士号取得(フォーダム大学)。58年本学文学部講師、66年同助教授、74年同教授。2002年から本学名誉教授。

高校生が論文執筆に挑むSophia GEDのプログラム 「せかい探究部」の探究活動

高校在学時にオンラインで、その後本学に入学し探究学習プログラム「せかい探究部」を受講し、その成果を報告する懇談会が7月4日に開催された。

「せかい探究部」は、上智学院傘下の教育事業会社でタイのバンコクに拠点を構えるSophia GEDが、2020年から主催する高校生対象のプログラム。受講生が自

ら能力を伸ばすという観点から、入学後も、履修する授業をぶれない軸を持つて選択できている」と語った。 暁道学長は参加学生に、「平和や貧困の問題を考えると、今後の学びにおいては必ずしも『わくわく』だけが動機付けにならないこともある。そのようなときに、自分のすべきことについて『使命感』を持って探究する」と呼びかけた。

7月12日、総合人間科学部看護学科・助産学専攻科の光武智美助教授が、千代田区立神田一橋中学校の生徒に「命の授業」と題した授業を行った。

授業後、生徒の代表から「胎児人形を抱っこして、小さかったけど重くて命の大切さを感じた。3億分の1の確率をめぐりめぐって生まれてきたことも知

96年12月、98年3月文部省「精神鑑定」(有斐閣)、「精神分析で何が分かるか」(講談社)、「犯罪精神医学入門」(中公新書)など。専門は精神医学、犯罪心理学。



暁道学長(右上)から修了証書が手渡された

ら能力を伸ばすという観点から、入学後も、履修する授業をぶれない軸を持つて選択できている」と語った。 暁道学長は参加学生に、「平和や貧困の問題を考えると、今後の学びにおいては必ずしも『わくわく』だけが動機付けにならないこともある。そのようなときに、自分のすべきことについて『使命感』を持って探究する」と呼びかけた。

神田一橋中学校で「命の授業」 千代田学の一環として

7月12日、総合人間科学部看護学科・助産学専攻科の光武智美助教授が、千代田区立神田一橋中学校の生徒に「命の授業」と題した授業を行った。



胎児人形を手にする生徒と光武助教授(右)

「自分にもこのような時期があったんだ」など興味深そうに話す生徒たちの姿が見られた。 授業後、生徒の代表から「胎児人形を抱っこして、小さかったけど重くて命の大切さを感じた。3億分の1の確率をめぐりめぐって生まれてきたことも知

8月1日死去。1936年生まれ。68年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。79年本学文学部心理学教授。2001年から本学名誉教授。